

俳句的なことから (6)

鈴木しづ子という俳人 その1

中嶋 嶺雄

実柘榴のかつと割れたる情痴かな  
夏みかん酢っぱしいまさら純潔など

これらの句によつて戦後の一時期、俳壇に旋風を巻き起こし、今なお俳壇の一角で、またジェンダー・フリー的的女性論を鼓吹するむきにも神話化されて語り継がれている鈴木しづ子は、松村巨湊が率いた結社「樹海」の出身である。「樹海」の最高同人(同人指名委員)だった父(晴陽)の句と同じ頁にも鈴木しづ子の句が出てきて、いわば花鳥瀟詠型の父らとは革命的にといいほど作風の異なる新進の女性俳人に、私も注目したことがあったように思う。

古い「樹海」のバックナンバーと一緒に出てきた鈴木しづ子の処女句集「春雷」が手許にあるのだが、東京の羽生書房から昭和二十一年二月に初版が刊行され、同年十一月に再版、昭和二十七年には随筆社から三版も出ていて、句集としては前例のない売れ方で、「戦後初の三版句集」と書かれている。ちなみに当今の古本市場では、わずか九二頁の「春雷」初版本に二万五〇〇〇円の値段がついている。

次に昭和二十四年十一月には、へ指環凍つみづから破る總の果などの句を収めた第二句集「指環」が随筆社から出たが、これも全冊売り切れとなった。「樹海」誌上の「指環」の広告文はこう書いている。「『春雷』を世に問うてその清麗さを謳はれた鈴木しづ子がいま、幾多放浪の果の青春の詩一五〇句を提出する。これは鬼才が綴る真紅のロマンである。数奇な命運に織りなす優婉曲雅な調べは正に驚異であろう」と。

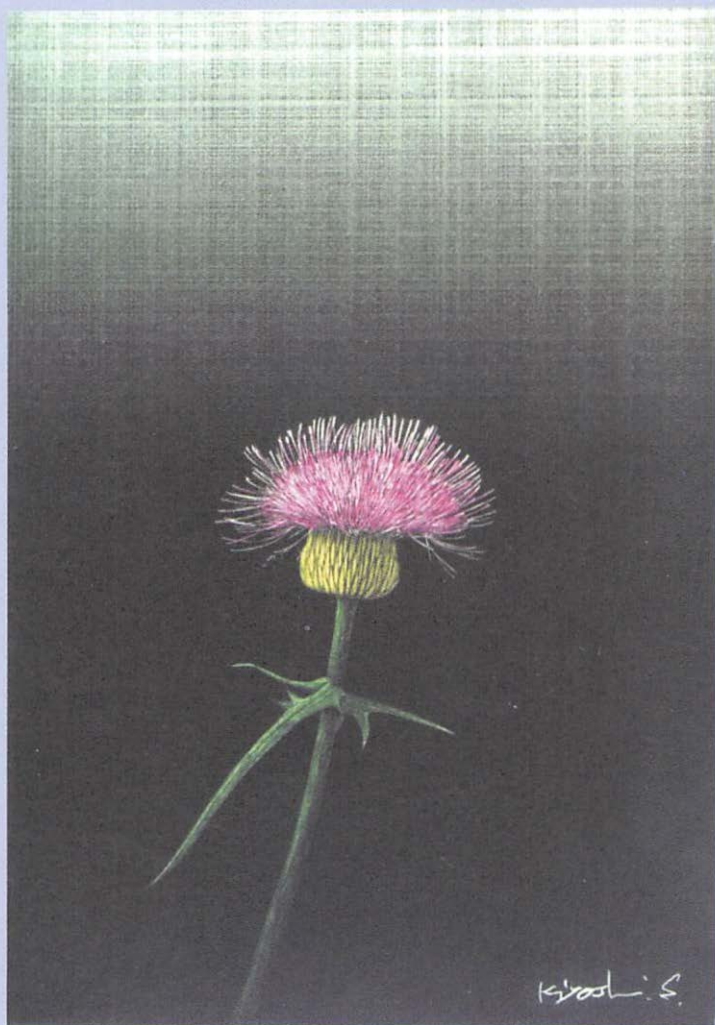
(国際社会学者)

目次 (219号)

俳句的なことから (6)	表紙絵	斎藤	清
俳冠抄	題字	佐藤	文字
風のロンド		中嶋	嶺雄
花林檎		佐藤	文字
化生		高木	彰
俳句アングル			
邂逅集			
五句選	丸山 友昇・村越 還	中島さくら	
粹集			
久女雑感 (16)		増田 連	
風発		丸山奈津子	
溪流	国分ひで子・恵鶴 保昌		
青嶺集	小澤 幸枝・荻久保八重子		
青樹集			
萌芽集			
一句の衝撃	宮下 裕太・大西 達夫・白井さと子		
一句一会	二宮 雪山・高山たんぼ		
信濃の恋「明日は日曜」に寄せて			
万華鏡			
せせらぎ		中村 和代	
例会作品			
風信子・文箱			

# 信濃俳句通信

平成七年四月十九日 第三種郵便物許可  
平成十五年六月十日発行（毎月一回十日発行）  
第十九卷第六号 六月号（通卷二一九号）



2003 6月号